

2年生の造園植栽の授業で、各自が持ち寄った湯呑を利用した「湯呑盆栽」づくりを行いました。まず、湯呑の底には排水用の穴がないため、専用のビットを使用して一つ一つ丁寧に穴を開けました。その後、底網を銅線で固定し、盆栽鉢として使用できるように準備を進めました。



植栽には、自分たちで挿し木して育てた苗木や、先輩方が育成した実生苗・挿し木苗の中から好きな樹木を選びました。湯呑の正面を決めた後、これまでの授業で学んだ樹木の表裏や樹形を意識しながら植え付けを行いました。また、日本庭園の植栽技法にならい、樹木を中央に配置せず、自然な景観となるよう工夫して配植しました。植栽後は、校内で採取した小石や自生するコケ、寒水を用いて築山や流れを表現しました。



石を置く（石組み）際は、それぞれの石が持つ形や特徴を活かしながら配置し、小さな器の中に自然の風景を再現していきました。完成した作品はどれも個性豊かで、湯呑の中に広がる小さな日本庭園からは、和の趣を感じることができました。生徒たちは盆栽づくりを通して、植栽技術だけでなく、日本の伝統的な造園文化への理解も深めることができました。

